

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094200047		
法人名	医療法人 原外科医院		
事業所名	グループホーム Ever夜日(エバーゆうす)		
所在地	福岡県糟屋郡新宮町新宮東2丁目15-13		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果確定日	平成29年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「笑う門には福来る」の格言をモットーに、いつもにこやかに笑っていただける雰囲気作りを目指している。
また、医療との連携で、早期の対応・処置ができるような体制を整えるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体に持ち、開設から5年目を迎える「エバー夜日」は単独型の2ユニットグループホームである。車で5分程度の所に母体病院もあることで、医療連携も密接に出来ることが入居者の健康維持につながり、元気に100歳を超えた方もいる。口腔ケアに継続して取り組むことで、状態も良好に保っており、提携歯科からも褒められている。当初から地域とも友好関係を築いており、積極的に文化祭や夏祭りなどの行事に出向いたり、最近では地元の老人クラブと共同して公民館でのコンサートも行った。職員の処遇改善にも力を入れていて加算改善のために人事考課制度や研修制度の改革にも取り組み、職員の士気向上にもつながっている。今後は、事業運営にも地域の力を活かしながら、地域との相互発展への活躍が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、各ユニットの事務所および、フロアに掲示している。毎朝、事業理念を唱和し共有実践に努めている。また、新人の職員には初回時に管理者から説明を行なう様にしている。	フロア内の掲示を見ながら、事業所独自の4つの理念を唱和している。昨年の外部評価から、入居者と一緒に理念を下敷きにしたユニットごとのモットーを定め、いつも目につくところに掲示している。1Fは「笑う門には福来る」「病は気から」2Fは「笑顔」と掲げ、馴染みをもって取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出来る限り参加して交流を図るようにしている。また、地域の総会などには職員が参加したり、地域の掃除にも参加している。先日の敬老会では、地域の敬老会の人々と素敵なコンサートを開くことが出来た。そこには地域のグループホームの方らもお呼びした。	以前から町内会に加入しており、先日の回覧板には老人会と一緒にしたイベントの様子が報告されていた。地域の夏祭り、敬老祭、コンサート、文化祭などは入居者と共に積極的に参加している。近隣のグループホームとも懇意にしており、情報交換や行事の参加なども協同して行っている。最近では地域の社協から綿菓子機を借りてレクにも使用した。	地域の保育園や幼稚園、小中学校など子供とも触れ合えるような新たなつながりが作られることにも期待したい。地域ボランティアや老人会の方などが事業所を訪れてくれるような、事業所を主体として、より開放された行事の企画なども検討されてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治体の参加等により、だんだんと地域の中に浸透してきたようで、今年100歳のお誕生日の利用者様には地域の方がお花とプレゼントを持って駆け付けて下っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に2回運営推進会議を行ない、その都度医療からの注意は院長が行ない、日常生活のお願いや協力・報告等は施設長から必ず行なうこととしている。会議後も時間を作り、家族とざっばらんに話が出来た時間を作るようにした。また、参加できない家族の方はその後書面で報告を行なう様にしている。	毎回第3木曜日の1時45分に開催し、請求書などと一緒に全家族にご案内、議事録の郵送報告も行っている。区長、地域包括などが参加され、家族も多い時は半数程度が来られる。近隣のGHIにも毎回案内し相互参加することもあった。最近では初めて身体拘束をテーマにしたグループワークを行い、それをきっかけに本音の意見が飛び交い、活発な会議になった。挙げられた意見や要望に対しても積極的に取り組んでいる。	テーマを定めたグループワークでは、活発な意見交換がなされたので、今後も様々なテーマ設定や事業所の課題などを挙げることで、地域の力を借りた会議運用に活かされてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、研修などの機会について役場との連絡等行っている。今年度は、地域ケア会議の参加も行った。そのほか、利用者様の100歳表彰についてや、RUN伴についての連絡等行っている。町が行っている体操教室にも定期的に職員がお手伝いに行っている。	町役場の担当課での担当者が明確になり、外部評価に関しての質問など、相談もしやすくなった。最近では被災リスクのある地域の希望者を救援する登録を役場に対して行った。2ヶ月に1回ある町の体操教室の運営を法人が請け負っており、毎回職員が手伝いにも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本行えない方向で検討しているがどうしても必要な場合は、ご家族様の同意書をもって対応している。町の徘徊ネットワークにも家族の同意をいただき登録している。	毎年計画的に身体拘束に関する内部研修を実施しており、最近では運営推進会議内でのグループワークも行った。元々玄関施錠はしていなかったが、夜勤体制時のみ防犯のため施錠するようになった。最近離脱事故が続いたが、それ以後見守りを強化するようにしている。最近では他所の徘徊模擬訓練にも参加した。	

H29自己・外部評価表(GHエパー夜臼)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を行っている。事業所内での虐待等については、職員間の風通しをよくして状況把握がスムーズにできるようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修にて日常生活事業・成年後見制度の勉強を行なっている。	これまでに制度利用された方はいなかったが、今回町役場からの依頼で、成年後見人の体験実習生の受け入れを行うようにしている。内部研修を毎年定期手に行っており、職員も一般的な制度内容を理解している。以前制度利用を検討した方もおり、必要時には紹介することもできる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初めての契約時には時間をしっかりと取り、本人・家族と面談し話ができる機会を作っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて一度家族を交えて、「拘束」についての意見交換会を行なった。その際、家族からの演題以外の意見も聞くことが出来た。	定期的に面会に来る方も多く、8割方の家族は月1位回以上は来られている。運営推進会議でも積極的に意見交換もなされ、敬老会や夏祭りなどの行事にも招いている。SNSを使って行事や日頃の調理の様子を写真付きで報告に活用するほか、医療報告や行事報告も個別のお便りで毎月こまめにしている。	運営推進会議後に家族同士の交流の場も設けているが、より多くの家族にも参加して頂くために、家族会の実施や、祝祭日など参加しやすい曜日の設定なども検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが、管理者と職員との面談は行なう様にしている。代表者にはその意見を管理者から報告などで伝えるようにしている。	昨年は2ヶ月ごとに会議をしていたが、職員の体制によりしばらく出来ておらず、今から再開予定である。管理者も現場に入っていることで日頃から何かあった時の相談もしやすい。本部の上長との面談機会もある。運営に関しての意見も出されており職員からの提案で、職員紹介のボードを作った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護労働環境整備に努めているが、介護職員不足解消には至っていない。介護報酬減に伴うものの原因もあるが、今回処遇改善での給与引き上げも検討している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集については年齢制限をほとんど持たない様にしている。また、資格取得希望者についても採用後の資格取得のサポートや助成等の援助についても規程を整えた。	外国籍の職員もおり、紹介によって継続的に入職されている。職員19名の内男性が2名で、全体は20代～60代と幅広い年代層で活躍されている。休憩時間、休憩場所も確保されており、研修案内もあり希望があり勤務の都合がつけば参加も出来る。処遇改善加算の取り組みにより、新たに人事考課や研修制度の拡充にも取り組まれた。	職員の定着と確保が大きな課題であり、長く勤められる職場環境や人事制度、勤務形態の検討などが引き続きなされ、安定的な運営がなされる取り組みが実現することに期待したい。

H29自己・外部評価表(GHエパー夜臼)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「身近な人権問題」と称して管理者の外部研修の報告会で研修を行なった。それらについての職員の意見等も収集している。	管理者が参加した外部研修の内容に関しては、内部での伝達も行った。人権関連の内部研修も、毎年計画的に実施しており、職員が持ち回りで講師役を務めている。直近では「倫理とコンプライアンス」をテーマにして行った。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記記載の様に、介護分野における研修の補助等の規程を作成。また、事業所内研修も出来るだけ月1回は行なう様にしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流や、地域の施設での交流を行なう様にしている。特に地域の施設の方がグループホーム協会のイベントなどに誘って下さり情報提供など頂いている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を行った上で、サービス前から十分にアセスメントを行ない、個々の状態にあったサービス提供を準備するようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付を行なう際には、出来る限りご本人・家族との面談を充分に行なう様にし、サービス後の関係を保てるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時、しっかりとその状況を聞き取り見極め、もしも他のサービスの方が良ければ他の事業所、施設などを紹介することもある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事・調理の配膳などいつもの暮らしの中で出来る利用者については協力を仰ぐようにしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念にもあるように、家族とその絆を大切にしていける為に面会の機会や状況報告を適宜行なう様にしている。地域の夏祭りや敬老会など行事には家族と一緒に出来るようにしている。		

H29自己・外部評価表(GHエパー夜臼)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた友達の訪来などもあっている。家族も良く施設には面会に来てくださっている。	ほとんどの家族が毎月定期的に面会に来られており、それ以外にも知人や友人が来ることもある。行事も積極的に呼び掛けることで来訪機会を増やしている。家族にも協力を依頼することで、外出支援をしてもらっており、行きつけの美容室に行く方もいる。地域情報誌も定期的に届けてもらっており、意欲の刺激にもつながっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入し、レクリエーションへの参加や外出への促しを行なっている。また、食事の席や外出時の車のシートの配分は利用者の状況と人間関係に配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の家族様が懐かしんで寄って下さったり、困ったことが有った時に協力して下さる事もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の状況に合わせて職員は対応している。その為、一人に関わる時間は長くなっている。アセスメントにより、計画を立て職員が工夫して対応できるようにしている。	基本的にはケアマネが担当してアセスメントを行う。以前センター方式を活用したこともあったが、今はしていない。具体的な意向や要望が出てくるのが少なくなったが、日頃の話の中や、職員の質問からうまく引き出して把握に努めている。介護更新時にプランの見直しと合わせてアセスメントも見直している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は、家族(本人)より、詳しく生活歴を聞き取りしている。それらを独自のアセスメントシートに記入している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の心身状態は、ケアシートを活用し把握できるようにしている。ケアシートはそれぞれ状態変化が有った時などに見直しを行なっている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング等で本人様の状況をまとめ、3カ月に1回は計画を見直すようにしている。家族とも面談時には出来る限り話す機会を作り意見などを収集するようにしている。	各ユニットの計画作成担当者とケアマネが協力して、モニタリングやプラン作成を行っている。プラン目標に基づいた実施チェック表も別にあり、漏れや抜けの内容日々の管理を進めている。見直しは介護更新時～随時で行っており、その際に担当者会議を開催し、出来るだけ本人にもでてもらっている。適宜医師からの意見なども確認している。	

H29自己・外部評価表(GHエパー夜白)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録などには出来る限り本人の言葉などをそのまま記載するようにしている。また、職員間の情報共有にはノートを作成し、一貫して対応が出来る様工夫している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングや職員からの意見等取り入れ、新たなサービスの導入等検討することもある。今年は地域の老人会とのコンサート開催などが実現できた。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り地域の店やサービスを利用できるようにしている。理美容などは地域の店にお願いしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院の受診や訪問診療で対応するようにしている。訪問診療は少なくとも月2回定期定期に必要なに応じてそれ以上も相談支援を行なえるようにしている。	母体が病院でもあり、きめ細かい受診支援が受けられるため、かかりつけとされる方が多い、希望があれば元々の主治医を継続することも可能で、他科受診の場合は家族の協力も得ながら行っている。毎日、いずれかの入居者を往診しているため、何かあった場合はすぐに相談することが出来る。医療情報は毎月のお便りの中で家族との共有を図っており、所内でも詳細に記録されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回程度看護師が訪問してくれ、医療での相談支援、医療行為等行ってくれている。介護職員も看護師に情報・気づきを伝えている。必要であれば担当医にその上で報告がいく。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、ご家族や病院関係者と連絡を取り合い、ご本人の状態把握に努めている。必要に応じて、病院に出向きカンファレンス等にも参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化するであろうと思われる利用者様については、家族・医師と早い段階でどのような方向性で対応していくかは話されるが、実際にはぎりぎりまで施設での対応を行なったとしても最終的には病院搬送を行なっているのが現状である。医療が必要な利用者様について、訪問看護の利用を行なった事もあった。	過去に看取った事例はあるが、ここ最近ではなかった。希望があれば最期まで支援する方針で、看取りに関する勉強会も行っている。母体病院では看取りも行っており、夜間や緊急時の対応もされる。訪問看護は適宜必要な際に手配して、協力してもらえる体制がある。	

H29自己・外部評価表(GHエパー夜臼)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修会を行ない対応について検討する機会はあるが、実際の訓練までは行なうに至っていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時については定期的な検討も行い、被害が予想される事項については改めて検討し、職員との避難等方法についての共有を行なう様にしている。また、近隣の利用者家族には緊急時の連絡の了承を得ている。	毎年2回定期的に防災訓練を実施しており、うち1回は消防署の立会いにて行っている。一人対応を想定したものを行うこともあった。備蓄物や水や食料品をそれぞれ確保し、必要品を防災袋としてまとめたものも準備している。近隣に住む入居者家族には了解を得て、緊急連絡網にも入ってもらっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の利用者様に対する対応についての検討会や研修を行ない、どのように対応したら笑顔が見られ落ち着いた生活が出来るかを行なった事が有った。	マナーに関する研修や、プライバシー保護に関する研修も実施しており、入居者が笑顔で過ごしてもらうように心がけている。「ユマニチュード」というケア技法に関する勉強会を実施し取り入れたことで、表情の硬い入居者に笑顔が見られるようになった。SNSなどの写真利用も書面で同意を得たものに留め、それ以外の方は加工して使用している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、日常生活の中で利用者の言葉に耳を傾けるようにしている。月に1回の調理などは利用者様の意見でメニューを決めたりしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大まかにしか決めていない。その日の体調や天候、気分によって活動を決定している。身体機能に影響を及ぼさない範囲でその方のペースで過ごしてもらう様にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にそれぞれ合わせ、家族の協力を得て洋服の入れ替えを行ってもらっている。入浴時にその人らしい洋服等選定し着用してもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事については規制のおかずの提供だが月1回の調理の日はそれぞれの利用者様の出来る事を職員と一緒に、楽しんで食事ができるようにしている。後片付けについても利用者のヤル気によっては支援を依頼することが有る。	3食とも近所の仕出し屋から配食を受けており、ご飯と汁物のみ事業所内で調理している。医師の指導による塩分管理も適宜しており、健康維持に努めている。検食担当が日替わりで各ユニットで交代しており、入居者と一緒に食事することもある。陶器の器に盛りつけ直して配膳しており、個別対応もして味の評判も良い。	

H29自己・外部評価表(GHエパー夜臼)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や、水分量はチェック表に記入し確認できるようにしている。そこで、食事量・水分量の調整など行っている。また、少なくとも1ヶ月に1回は体重測定して状態を確認している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各個人に職員が対応する。歯科も月に2回訪問診療で入り、職員の口腔ケアの実施状況を確認し、指導に当たる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づきトイレ誘導、排泄介助を行なっている。トイレ誘導の時間等も各個人的に別々になっている。	トイレが3か所あり、男性用の小便器もある。排泄チェック表は全員分を1日1枚で管理し、個別にリハビリやオムツなどの排泄用品種類も一瞥出来るようになって見やすい。チェック表を元に、状況改善が見られる方への提案は申し送りで、気づいた職員が行うようにしている。	排泄に関しての改善提案は随時、気づいた職員によって申し送り時などにされているが、場合により提案が漏れたり、抜けたりすることもありうる。定期的な会議やミーティングなどで、話し合いの場を設けたり、担当を決めたりすることで継続的な改善に向けての取り組みがなされることにも期待したい。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については各個人の排便コントロール表を担当医と相談し作成し、それに基づき排便コントロールを行なっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回程度入浴できる機会を作っている。だいたい午後入浴としているが予定として入浴できない利用者に対しても日程を変更したり、時間を変更したりして対応している。	1, 2Fは共通の造りで、三方向から介助が出来る位置に浴槽とベンチが配置されている。立ち上がり不安定な方のために、U字型のシャワーチェアを最近購入し活用されている。拒まれる方にも無理強いせず、上手に働きかけて入浴してもらるようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ利用者はフロアに出てもらい、日中横になる時間を少なくし、夜間に眠れるように工夫しているが、臨機応変にその都度状態で日中でも横になる時間を設ける事もある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容については職員がいつでも閲覧できるように設置しており、服薬内容の変更がある時には職員全員が理解できるように申し送りのノートに記載するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントにてその人の得意とするものを予め調査し、その上で計画にのせ、出来る限り日常生活やレクリエーションなどの場で発揮できるよう支援を行っている。		

H29自己・外部評価表(GHエパー夜臼)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っての外出は職員不足の為実現できていないが、家族の協力などを得て、出来る限り地域の行事等の参加は積極的に行なう様にしている。	歩いて行ける範囲での外出のほか、年間の外出行事では年に4回程度季節折々の外出を行っている。家族に依頼して連れ出してもらう事も多く、外食などにも行っている。計画以外でも少人数でのドライブで、買い物や近所周りをすることもあり、家族も誘って外出行事と一緒にいくこともあった。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を少額持っている利用者はいるが実際に直接お金を使用する事はない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、本人が希望が有る時等は職員が仲介して行っているが、手紙については特に行っていない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ちついた家具の配置等工夫しており、また、利用者の動きが見渡せることが出来るようにしている。季節感については、環境設定で感じる事ができる工夫を行なっている。	和モダンのシックな色合いで統一されており、ホールを中心にして居間が周囲を取り囲んで配置されている。テレビ前のソファや、ダイニングテーブルなど思い思いの位置で過ごされており、椅子も当初用意していたものから逐次、安全に配慮されたものに変更もされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席については気の合った利用者同士が座ることが出来る様工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に持ち込む家具などは特に制限などは無い。本人や家族の希望する物の持ち込みは可能。使い慣れたものを持ってきている利用者もいる。	介護電動ベッドや、鏡台、タンスなどの居室内の据え置き家具も、全体の雰囲気のを意識したダークブラウンの色調で統一されており、高級感がある。テレビなどの持ち込みは自由だが、ホールと一緒に過ごされることが多い。表札代わりのツールペイントが居室の号数を表示しており、洒落た雰囲気に一役買っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室をはじめ、適所に手すり等を設置し施設内はバリアフリーである。その為、車いすでもある程度自立した生活が行なえる様にしている。		